

川崎市議会議員 いわくま ちひろ

「中学校給食」特集号

民主みらい
川崎市議団
連載No.77

中学校完全給食への第一歩

平成23年3月議会において、市議会は行政に対して全会一致で「中学校給食の実施」を決議して以来、今議会にて、その第一歩となる「仮称」南部学校給食センター（幸区）の整備・運営に係る契約議案を可決しました。

本整備事業は、民間事業者のノウハウを生かしたPFI事業（BOT方式）であり、株式会社東洋食品グループを代表企業とするSPC（特定目的会社）に維持管理運営を約15年間委託することになります。

南部学校給食センターより配送される対象中学校は、高津区内です。

議会の役割は、行政施策を于エツクすることです。本整備事業を



川崎市議会議員 いわくま ちひろ

- 昭和50年生まれ 40歳
- 英国国立ウェールズ大学卒業
ロンドン大学大学院研究生
専門は国際政治学
- 国際派議員として、子どもから大人まで英語教育をイイトる。毎週日曜日、1階ホールで市政報告を継続中！（9年）

財政運営と情報公開

※あくまで現段階でのスケジュール予定です。

なりますので、次の12月議会での議決案件となり平成29年12月からの実施を予定しています。

は、橋本高津中が対象となり、最短で平成29年9月からの実施予定となっています。また、小中合築校である東橋中においては平成28年1月より試行実施を開始し平成29年1月より完全給食の実施を予定しています。高津・西高津・野川中については、中部学校給食センターより配送されることになり

契約するにあたり、私の所属する総務委員会では、異例の4日間に渡る長時間審議となりました。そもそも給食事業については、議会側も求めてきた経過もあり、もめる案件ではなかったのですが、長時間審議になったのは、市が将来に渡る財政収支の見通しを示してこなかったことに起因しています。

給食事業の整備は、総額約446億円の巨額な大規模事業です。年間ランニングコストは約23億円です。それでも議会は、その債務負担については認めてきました。

一方、今後想定される大規模事業として、例えば、これ以上の耐震補強が不可能な本庁舎の建て替え、羽田連絡道路整備、南武線高架化、小児医療費の助成などがあ

また、情報公開のあり方も問題でした。給食事業は、重要案件であるにも関わらず今年度に入り総務委員会への報告は一度もなく、また事業者を入札選定した際の会議の議事録も公表されていません。加えて、給食センターからの配送時間が1時間半程度かかる中学校も見受けられるなど、不明瞭な点を挙げれば枚挙にいとまがありませんでした。

誰のための給食か？

本事業は、子ども達に対し安心してバランスのよい給食を提供することが主たる目的です。それと同時に、巨額な財政負担を市民のみならずご理解して頂かなければなりません。

行政・議会・市民とも単に早く進めればよいという短絡的なことではなく、質が高く安全なものをつくりと担保した上で子どもたちに提供するということ本質を行政に求めて参ります。

た財源を各事業に還元してきましたが、現市長下では、立ち上げる事業ばかりが目立ち、整理・統合などいわゆる行財政改革の視点が欠けているのです。